
天使のささやき

があわいこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使のささやき

【Nコード】

N75260

【作者名】

があわいこ

【あらすじ】

コンドルのジョーはなぜ最終回で死なねばならなかったのか？
その「定説」に反抗（？）してみました。

南部は爆風で吹き飛ばされた小さな男の子を胸に抱きかかえて病院へと急いでいた。

だが走ることは避けた。その振動でさらに彼の身体に与えるダメージが大きくなりそうだったからだ。

そう、まさに瀕死の状態だったのだ。

その子の顔は鮮血で真っ赤に染まり、どんな顔をしているのかさえよくわからない。

頭をやられているようだった。

南部自身の上着やネクタイ、そしてすでにシャツまでその子の血で染まっていた。

膝から下は上半身に比べてダメージが少ないようだが、予断を許さない状況だ。

「もしかしたら助からないかもしれない。」

ふとよぎるそんな思いを南部は何度か首をふって振り払おうとした。

「ここはどこ？」

ジョージは一人で知らない野原の真ん中にいた。

見たこともない美しい花が一面に咲いている。

聴いたことはないが何か懐かしい感じがする音楽がどこからともなく流れてくる。

「誰か、誰かいないの？」

するとどこからともなく声がした。

「ジョージ・アサクラ君だね。」

「誰？どこにいるの？」

あたりを見回すとサツと上空から光がさした。

「私はガブリエル。大天使の……。知っているだろう？」

ジョージはまぶしくて目の上に手をかざすと声がする光の方を見ようとした。

「知っているよ。教会のステンドグラスにいる人でしょう？」

「そうだよ、ジョージ。今日は君に聞きたいことがあって来たのだ。」

「どんなこと？」

「君は随分といたずらっ子だったね。」

ジョージはドキッとして一步下がった。思い当たることがいくつかある。

天使さまが罰を与えに来たのだと思ったのだ。

だが、天使の言葉は意外なものだった。

「君はさっき爆弾に吹き飛ばされて死んだのだ。」

「なんだって……！」

ジョージは心底驚いた。

「じゃあ、こ、こ、ここは……？」

「そう。天国の入り口だ。」

「……ボク……死んじやったんだ……」

「そうだ。……だが、いまから私の言うことを聞いて正義の道を歩むというのなら10年だけ寿命を延ばしてやろう。」

「セイギ?!」

ジョージは言葉の意味が良くわからなかったが、天使の言う通りにすれば死なずに済むのかしらと考えた。

「約束します。天使さま。」

「よろしい。では君の命を助けてくれるナンブコウザブロウという博士の言うことをよく聞いて、仲間とともに正義のために戦うのだよ。」

「ナンブ？コーザブロー??」

光が一層強くジョージを照らした。

そして天使の声も大きく響いた。

「地球はいまかつてない危機に瀕^{ひん}している。このままでは世界中の生きとし生けるものみな全てが死に絶えてこの世の終わりが来てしまう。ジョージ、君は神様に選ばれたのだ。地球をこの危機から救う男としてね。」

天使の使う言葉は難しくてよくわからない部分もあったが、これからナンブという人の言うことを聞けばいいということだなとジョージは思った。

それがどんなことなのかよくわからなかったが、いま死ぬのはいいやだ。もう少し生きたい。

昨日アランのパチンコを壊したのはボクだ。自分よりも遠くへ石を飛ばしたのがくやしかったんだ。生き返ってアランに謝らなくちゃ。

ジョージはその場にひざまずいてお祈りの格好をすると天使に答えた。

「命を懸けて…いえ、命に替えても地球を守ります。だから天使さま、ボクを地上に還^{かえ}してください。」

「よろしい・・・」

「もう一度やってみよう、それでだめなら・・・」

南部は何度目かの電気ショックを小さな男の子の胸に与えようとしていた。

「ドットーレ・ナンブ…!」

その時、心電図のモニターを見つめていた看護師が声をあげた。

そこには小さいが確実に命のリズムを刻む波形が現れていた。

「助かったのか…奇跡としか言いようがない。」

南部は前髪の乱れも気にせずフツと息をつくと男の子が横たわるベッ
ツドのわきに両手をついた。

「きつと神の思し召しです。」

ずっとそばに付き添っていた神父はそうつぶやくと胸の前で十字を
切った。

F i n

（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

ガッチャマンの二次創作は他にもありますのでよかったら読んでください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7526o/>

天使のささやき

2010年11月6日23時21分発行